

2022年3月発行
第52号

農業委員会だより

ひこね



左から福永正雄さん、木村顕代さん



いちごづくりで新たな担い手に

福花農園 木村^{きむら}顕代^{あきよ}さん

農業委員 伴 孝子

銀行員を経て、実家の仕事を手伝いながら子育てをしてきた経歴を持つ木村顕代さんが、令和2年、大好きないちごを自分でつくりたいとの思いから、福永正雄さんの農園を継承し、新規就農を果たしました。福永さんは、章姫・紅ほっぺを育てる滋賀県いちご界のレジェンドです。三年前に奥様を亡くし、細かな仕事が多いいちご農園を一人で運営していくのは難しいと考えていました。

木村さんは「初め、いちごづくり60年、どんな怖い方だろうとドキドキしていました。」と振り返ります。実際にお会いし、その人柄に触れ、トントン拍子に話が進みました。

木村さんは、福永さんと「賃貸借契約」を結び、ハウスはもちろん細かな道具まで設備の全てを借り受け、いちご育成のノウハウを伝授いただくことになりました。初期投資は少なくてすみました。福永さんに賃借料を支払います。今年8000本の苗、すべてを木村さんが育てています。次々と出番を待つ赤い実を、毎日、早朝に摘み取り、パッケージし、直売店や卸売市場に届ける仕事は時間との勝負です。シーズン中は緊張の日々が続きます。

定植時には、ご主人、娘さん達、お母さんやお姑さんが、一族総出で取り組み、仕事の後は皆で昼ご飯を囲みます。福永さんは、その様子は多くの農家が家族で農業を担った頃を再現するようだと言います。また、自分の仕事をやりくりし、遠くから駆けつけてくれる友達も多く、それは農業の新しい形でもあります。

「覚悟はしていたけれど、思った以上に大変でした。でも、思った以上に楽しいです。」と語る木村さん。初め、バカなことと言われるのではないかと、笑われるのではないかと迷いながら、「いちごをつくりたい。」と口にしました。すると、先輩農家さんや行政の方が、驚くほど親切に情報をくれ、やがて、福永さんとの出会いにつながりました。新規就農を考える方へ、木村さんのメッセージです。「まず、その気持ちをお口にしてみてください。皆が力を貸してくれ、自分次第で、自分の時間も作れる素敵な仕事です。」

農業を次の時代に繋ぐ新しい形に、ハウスの明るい光が重なるようでした。

会 長 挨 拶



彦根市農業委員会
会長 田中 金二

日ごろは彦根市農業委員会の活動に格別のご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、農産物の消費減少や農産物価格の低迷、コメの在庫量増加によるさらなる生産量調整等、農業を取り巻く環境は益々厳しくなっております。農業者の生産意欲の低下や農業者の減少による遊休農地の増加が心配されるところです。

また近年、爆弾低気圧や線状降水帯、ゲリラ豪雨など新たな気象用語が一般的になるといったように自然災害が多発しており、地球温暖化による影響は計り知れなくなっております。さらに、昨年未彦根市でも観測史上最多の大雪により被害が出るなど、このような異常な気候変動は農業分野にも多大な影響をおよぼしています。

こうした中、認定農業者や集落営農組織の構成員の高齢化に伴い、農村集落や農地の持つ多面的機能の維持等の適切な農地の利用が困難な状況になつてきつております。

彦根市農業委員会は、多くの課題を抱えておりますが、これからも農業・農村を維持していくうえで、優良農地を守り彦根市農業振興のための地域活動に取り組めます。

皆様のご意見やご要望をお寄せ下さいますようお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

彦根市の農業振興に向けて



彦根市長
和田 裕行

皆様には、日頃から市政の様々な分野にわたり、ご理解とご協力をいただいておりますことを、心からお礼申し上げます。

本市の農業を取り巻く状況は依然として厳しく、「後継者となる担い手の確保」や「耕作放棄地の未然防止」が求められているほか、競争力の強化に向けた「農業経営の規模拡大」や「農地の集団化」、「農業への新規参入の促進」など、多くの課題に直面しているものと日々認識しております。

また、新型コロナウイルス感染症の影響による外食産業向けのコメの需要の減少による価格の下落や、大雨や台風などの天候不順、昨今の原油高の影響による生産コスト増など、農業を取り巻く環境は大変厳しいものであると思われれます。

こうした中、農業委員、農地利用最適化推進委員の皆様方はじめ、農業従事者の皆様には、日頃から本市の農業振興に尽力いただきまして感謝申し上げます。

市といたしましても、大変厳しい財政状況の中ではありますが、国や県の補助メニューの活用を積極的に行い、農業の推進を支援してまいります。

また、本市の特色ある農業の発展のために、井伊の「赤備え」になぞらえ、赤のものづくりとして、「赤い農産物」をブランド化し、イベントやインターネットを通じて国内外問わずPRを行い、彦根産の農産物の付加価値を高めることや、ロボット技術やIOT、ICT等の先端技術を活用したスマート農業や、インターネットを利用した直販を行う仕組みなどの研究を行い、売れる物を作る農業に転換することで、農業を活性化してまいりたいと考えております。

様々な視点から皆様のお知恵や経験を拝借させていただきながら、本市の農業のさらなる振興を進めていければと思っております。今後とも、市政へのお力添えをいただきますようお願い申し上げます。今後して、私の挨拶とさせていただきます。

数字で見る彦根の農業

推進委員 辻野 久和

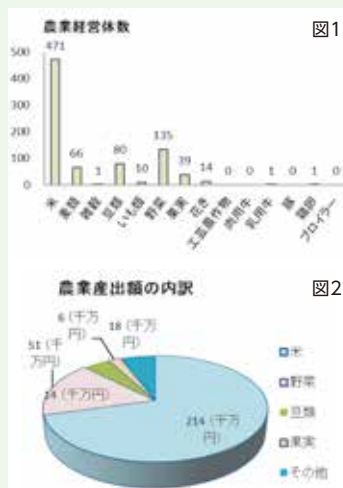


図1・2について農林水産省のホームページ統計情報より抜粋

2020年「農林業センサス」の統計情報が2020年末に公開されました。5年に一度の頻度の調査で、農業の国勢調査ともいわれています。彦根市においても全国的な傾向と同様な状況が見受けられ、1ha未満の零細な農業経営体と10ha以上の大規模な経営体に分極化しています。農家の減少率は20%ですが、経営耕地面積は農家の減少幅ほど大きくはなっていません。大規模農家への耕作地の集積化が進んでいると思われませんが、農地の全てが耕作地として機能しているかと言うと疑問点が残ります。借入農地の面積が農家の減少率に比例していない結果、数字に表れない耕作放棄地があるように思われます。

市内には北部の中山間地、中部の市街地近接地域、南部の基盤整備の進んだ平坦地と様々な農地が立地しています。各地域の農業を進めていく上で、高齢化・後継者・環境保全等様々な問題が山積しています。農地の集積で全てが解決するとは思えない現状が差し迫っています。特に農業従事者の高齢化・減少、若者の農業離れ・後継者不足、当初の法人等経営体の立ち上げメンバーが継続している等今後の農業経営に大きく影響を及ぼすのではないのでしょうか。

水稲・麦・大豆栽培が大多数を占めている市内の農業経営の現状を考えると、コメ価格の下落は農業産出額に大きく関わってきます。産地間競争は益々厳しくなってくると思われ、今後は彦根梨のように、彦根ブランドの特色を活かす農業を地域施策に期待しています。

遊休農地の解消を目指して

推進委員 北村 善夫

令和元年度の大藪地域の遊休農地の拡大を受け、令和2年度に引き続き、農業組合と連携しつつ、農地中間管理事業を活用した遊休農地の解消を目指した活動を進めました。

新型コロナウイルスの影響で地権者の方々と一堂に会することもできず、「人・農地プラン」を基にした集積計画について地権者の同意を得るため、農業委員・推進委員で手分けして地域内は1軒ずつ訪問し、地域外の地権者には郵送等で事業説明や出し手のメリット等話しました。農地中間管理事業の理解が深まるとともに農地集積の必要性を周知でき、その結果ホープひこねに30反、個人の担い手に30反作付けしてもらったこととなりました。

農地中間管理事業の貸付者で相続登記ができていない場合等は相続関係説明図等の書類をお願いし、また、担い手が耕作しやすいように1区画の面積を大きくするよう話し合い、外部耕作者の使用料は1反3千円で農業組合に納める手続きも済み、今年も40軒余りの農家から農地中間管理事業へ貸付希望が出ています。まだ一部遊休農地がありますが、一部が解消に向けて努力します。5月には緑の田にカエルがなくなるとなり、また秋には田一面黄金色で目にやさしい景色になったのをうれしく思います。



畦畔除去し区画拡大した田



農業委員会の活動報告



農地パトロールを実施しました



彦根市農業委員会では、毎年8月中旬から下旬にかけ市内各地の遊休農地（荒廃農地）の実態を把握するため、農地パトロールを行っています。

年々増加の傾向にある中で今年度、大藪地域において『地域の農地は地域で守る』を合言葉に、農業委員・推進委員・地権者・認定農業者が何回となく話し合い、集積化を行い、耕作放棄地の解消に努められたという事例報告がありました。

各地域においてもこのような事例を参考に知恵を出し合い、遊休農地等の発生防止、解消に向け地道な活動を通じて取り組む必要があると思っています。（農業委員 近藤 章）



「綿作りを通し人の輪を広げる」 —おうみこっとな夢つむぎでの研修を終えて—

11月18日女性の農業委員は市内本庄町で休耕田を活用し綿の栽培をされている団体「おうみこっとな夢つむぎ」を訪れました。綿つみを体験するには遅い時期でしたが実際に体験させてもらいました。畑には白、茶、緑の3色の綿が植えられていて、綿は白いとばかり思っていた私達はびっくりしました。綿の実は大きくはじけていて、ゆっくり引き出すと長く伸びそれはまたなんとやわらかいものか。緑の綿は日が当たると白っぽく変色するらしく、がくに近い奥の方ほど濃い鮮やかな緑色で秋の日ざしにやさしく輝きました。

団体の活動は広範囲で出店イベント、子供達の体験、学生への環境教育、キャリア教育等もされています。綿づくりを通して人のつながりを形成し、自然の恵みや手仕事の大切さを子供や若者に伝えることを喜びとされることに感銘しました。

また、事業拡大に向け商品の開発や販路拡大に意欲を燃やしておられます。六次産業に共通の課題である販路ですが、インターネットの活用等開拓に力を入れておられました。

体験教室のメニューでもあるリース作りを体験しました。3色の綿と野に咲く草花を材料に世に一つしかないリースを作ることが出来ました。笑い声高くにぎやかなひとときでした。

この研修から学んだものづくりの大切さ、また、これに関わる人と人の輪を今後の活動に広げていけるよう頑張ろうと思います。
（農業委員 北村 文尾）



おうみこっとな夢つむぎについてのお問い合わせ先
滋賀県彦根市本庄町2479 Tel/Fax: 0749-43-7201
ネットショップ: <https://oumicotton.base.shop/>
mail: oumicotton@gmail.com
HP: <http://oumicotton.web.fc2.com/>





市長へ意見書を提出しました

昨年10月27日、彦根市農業委員会は、本市の活力ある農業振興を目指し、令和4年度の予算編成に向けた「彦根市農業施策に関する意見書」を彦根市長へ提出しました。

市長へ意見は、

- ・担い手の育成・確保について
- ・遊休農地解消対策について
- ・特色ある地域農業の創造について
- ・環境と調和した農業の推進について など

7項目にわたります。

また、市議会議長と教育長へ意見書の概要を報告し、施策への反映を要請しました。

農業委員会は、農業者の代表機関として、今後も農業者の声を行政に届ける取組を積極的に行ってまいります。

なお、意見書については彦根市ホームページ<https://www.city.hikone.lg.jp/index.html>でも紹介しています。



令和4年度農地賃借料情報提供について

農地法第52条の規定に基づき、次のとおり農地賃借料情報の提供を行います。

令和3年1月から同年12月までに市内で締結（公告）された賃借料を集計し、その平均額を算出したものです。この「農地賃借料情報」は、法的な拘束力はなく、あくまで賃借料を決定する際の参考資料です。

実際の賃借料の契約に際しては、貸し手・借り手の両者でよく協議したうえで、締結してください。

(10aあたり)

区 分		平均額	最高額	最低額	データ数	過去3年間の平均額
整備田	稲枝地域	8,800円	11,500円	4,000円	672	9,000円
	河瀬・亀山・城陽地域	5,700円	8,500円	3,000円	94	6,100円
未整備田		3,000円	6,000円	2,000円	109	3,400円
(参考) 市内全域		7,700円	11,500円	2,000円		

1. 標準的な水準を算出するため、全賃借料データの平均値±70%を超えるものおよび賃借料以外の要素が含まれているデータは除いています。また、無料での貸借（使用貸借）についても、集計の際に除外されています。
2. 平均額は、算出結果を100円未満四捨五入としています。
3. **各地域の整備田と市域の未整備田を集計して平均額を算出しています。また、参考のため市内全域の平均額も併せて情報提供します。**

待ち望まれる農業を切り開き、地域を守りたい

―柴田ファーム

柴田

明宏さん

― 農業委員 伴 孝子

令和3年柴田ファームを継承した柴田明宏さん（37歳）を訪ねました。島根の大学を卒業後、実家に戻り家業の手伝いを広げ、平成22年にお父さまの幸弘さんと連名で認定農業者となり、農業に専念しました。京都で働いていた奥様と結婚し、今は明宏さんを中心に、奥様のともこさん、幸弘さん、お母さまの与志江さんの4人で運営しています。

28・5haに米・麦・大豆を育て、柴田ファームは管理が素晴らしいと評判です。それゆえ米・食味分析鑑定コンクール・国際大会で、これまで金賞・特別賞などを三度受賞しています。少しでも高い評価を受け、価値ある米として世に出すことを目指してきました。

明宏さんの発案で、春しか使わない育苗ハウスで7年間、冬のカブを生産しています。「新しく何かを取り入れるとき、見通しは不明。今でも



左から柴田明宏さんと父 幸弘さん



続けられていることは、周りの環境や、作業してくれる家族にもこの品目を受け入れてもらえたいですね。せっかくなのでいいものが作れても、いやいや作業してもらうのは実需者、消費者に失礼ですからね。」と熱く語ります。

農家に生まれて育ったからこそ、継承を決意しましたが、今後の経営のやり方についてはブラッシュアップがないとだめだと危機感を感じ、米・麦・大豆に限らず、待ち望まれる農業を見つけていきたいと取り組んでいます。個人経営ならではのフットワークの良さを活かした挑戦です。もし、今後、米が思うように売れない時代が来ても、プラスの力が発揮できるように前向きに考えて実践していると言葉に力がかかります。

そして、少し声を落とし「父の思いがあったから、未来を見据えて自分達の手で地域の農業を守りたいと思うようになった。」と教えてくれました。かつては殴り合いの喧嘩をしたこともあるという二人、本気でぶつかりあったことがあるからこそ、がっちりタッグを組む相棒であることが伝わってきます。

明宏さんは、これから継承しようという若手に「怒られているうちが華」という言葉を送ります。「やると決めたらやり通すことだ。上手くいかず、親・経営者・先輩に怒鳴られるようなことがあっても、それは見込みがあるからだよ。」明るい笑い声が響きました。

お知らせ

●農地基本台帳の写しの交付について

農地基本台帳の写しの交付等を希望される場合は、農業委員会事務局の窓口で申請してください。農業組合単位で交付を希望される場合は、組合員全員の同意書が必要です。

※1枚につきコピー代10円を申し受けます。

●農地を転用するときは農地法の許可が必要です

農地を農地以外に用途変更するには、自己所有地であっても原則として農地法に基づく許可が必要です。許可なく転用した場合、所有者の責任で農地に戻していただく場合があります。

転用をお考えの際は、必ず事前に農業委員会事務局へご相談ください。

獣害対策の取組

農業委員 松宮 秀治

2020年3月1日付農業委員会日より第49号に鳥居本西部の「獣害対策の取組」について報告させていただきましたが、今回はその続報です。

まずは谷間の周囲に全網柵を設置しました。緩衝帯の整備とまではいきませんが、柵の内・外の草刈りを年数回、地域の有志で実施しています。出入口は限定して、路上に獣害対策グレーチングを敷設しました。イノシシ、シカなどが飛び越していないことをカメラで確認しています。

それでも、どこから進入してきたのか、圃場の中に足跡が付いています。幸い2021年産米の被害は大幅に減少しましたことを報告します。



レシピ紹介

「大根のフライ」

【材料】

大根（葉っぱのついている青い方）… 300g
鶏がらスープの素 …… 小さじ1
薄力粉 …… 大さじ1.5
片栗粉 …… 大さじ1.5
青のり粉 …… 大さじ1/2
塩 …… 少々
サラダ油 …… 適量

【作り方】

- ① 大根を1.5cm角位に切る。
- ② ビニール袋に大根を入れ、鶏がらスープの素を入れてもみこむ。
- ③ 大根の汁気が出たら薄力粉・片栗粉を入れて混ぜる。
- ④ フライパンに高さ2cmほどサラダ油を入れ、160度ほどになったら中火で大根を入れる。
- ⑤ 時々かき混ぜながらキツネ色になったらキッチンペーパーで油をきる。
- ⑥ ボールに移し青のり粉を入れ塩で好みの味に調節する。



農地利用最適化推進委員の交代のお知らせ

青波・千本地域の農地利用最適化推進委員の交代がありました。

新推進委員氏名：大塚 おおつか 良一 りょういち

職業：農業

コメント：農地利用最適化推進委員としての仕事を理解し学びながら努力していきますのでよろしくお願いいたします。



「グリーンピアひこね」皆様に愛され開館30周年

農村環境改善センター（愛称=グリーンピアひこね）は、農業者の生活改善、健康の増進および農業技術の向上を図るため、平成4年4月にオープンし、今年30年の節目の年を迎えます。

ピーク時は年間4万人近い利用者がありましたが、近年は情報通信の進展等によって農業や農村を取り巻く環境が大きく変化し、農業者のライフスタイルも変化してきていることに併せ、一昨年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、現在は利用者が減少傾向にあります。

令和4年度は、こうした厳しい社会環境の中、ウイズコロナに対応した施設運営に努め、園芸（花づくり）教室、アグリ料理教室、菊講座のほか、農業委員会との共催によるゲートボール大会の開催を予定しています。

なお、昨年は、8月から10月までコロナワクチン接種会場となり、利用者の皆様にご不便とご迷惑をおかけしました。本年も2月から7月までブースター接種会場として、再びご迷惑をおかけしますがご理解をお願いします。

引続き地域の皆様に身近な「グリーンピアひこね」を目指してまいりますので、営農活動やサークル活動などに是非ご利用ください。利用の詳細は、インターネットで「彦根市農村環境改善センター」と検索し、ご確認ください。

【グリーンピアひこね】所在地：清崎町1118 電話：0749-25-3909



園芸(花づくり)教室

編 集 後 記

農業情勢が厳しくなる中、一昨年からのコロナ禍と相まって米価の大幅な下落、生産資材機材、燃油の高騰等で農業経営も危機的な状況があります。地域においても農業離れ、後継者不足、地域活力の低下等様々な構造的課題が顕在化しております。

農業委員会としても、諸課題に対して真摯に取り組み、知恵を出し、農家の皆様と共に持続可能な活力ある地域農業、地域社会の構築を目指して行かなくてはと考えます。

最後になりましたが「農業委員会だより」の編集にご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。
(推進委員 澤田 勘一)

就農相談窓口の紹介

就農をお考えの方向けの相談窓口です。
お気軽にお問い合わせください。

滋賀県湖東農業農村振興事務所 農産普及課

電話：0749-27-2213

(公財) 滋賀県農林漁業担い手育成基金

電話：077-523-5505

彦根市農林水産課

電話：0749-30-6118



NOU NEN 農業者年金

しっかり積み立て がっちりサポート!!
農業者なら広く加入できます



相談・お問い合わせ先
彦根市農業委員会か
JA東びわこまで

全国農業新聞

農業者の視点で
情報をお届けします

☆発行日
毎週金曜日(月4回)

☆購読料
月700円(税込)

☆申込先
彦根市農業委員会事務局
TEL 30-6133